

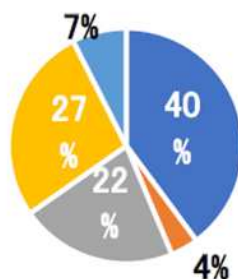
- 審議会での議論から以下の設問を追加して実施中

追加質問

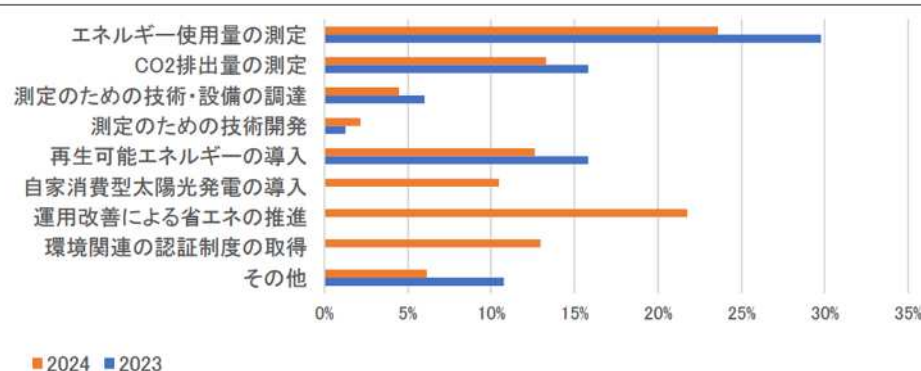
- 環境に配慮した取組や経営を行う企業を評価する社会に変わってきていると感じますか。
「そう感じる」「どちらかと言えばそう感じる」「どちらかと言えばそう感じない」
「そう感じない」「わからない」
- 企業が環境に配慮した取組や経営を行うとともに、そのことを評価する社会に変わっていくために必要と思うことを選んでください。（3つまで）
「先進的な企業の取組の紹介」「エシカル消費の普及」「消費者向けの意識啓発」
「商品・サービスについてのラベリング制度の導入」「市民団体等による企業の評価の促進」
「条例などによる企業への規制」「その他」
- 京都を訪れる観光客に対して、観光客に知ってほしい、取り組んでほしいことは何ですか。
「ごみをポイ捨てしない」「ごみを持ち帰る」「食事を残さない（食品ロス削減）」
「マイボトルの持参」「ごみを持ち帰る文化があることを知ってほしい」「京都の自然環境について知ってほしい」「京都議定書誕生の地としての地球温暖化の取組について知ってほしい」「京都のごみ減量の取組について知ってほしい」「その他」
- 環境基本計画の策定にあたり、京都市においてどのような環境と暮らしの姿をめざしていくのがよいか自由に記載してください。

- 最も取り組まれているのは「リサイクル」、「脱炭素」は4割程度、生物多様性への取組は少数
 - 脱炭素（エネルギー）については、まず使用量の見える化から取り組まれている。
 - 生物多様性に取り組む事業所は、エコ商品の購入や認証の取得よりも少ない。ただし、一定存在する。

脱炭素の取組状況

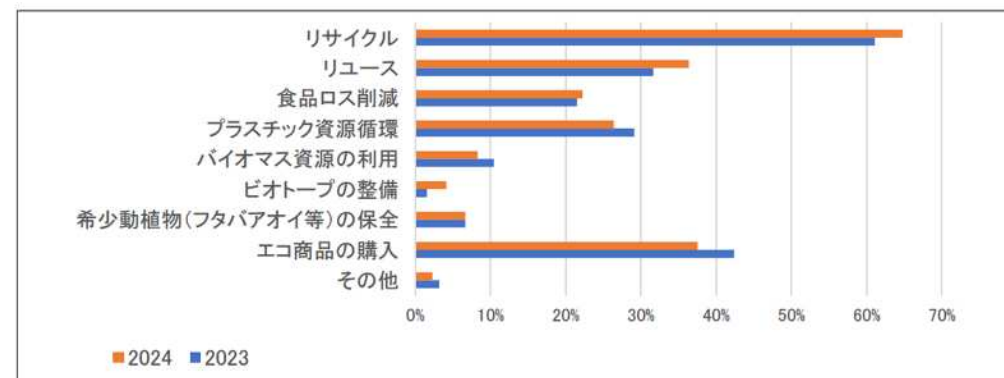


■ 取り組んでいる ■ 取り組む予定がある ■ 取り組みたいが、まだ取り組めていない
■ 取り組んでいない ■ 取り組む予定はない



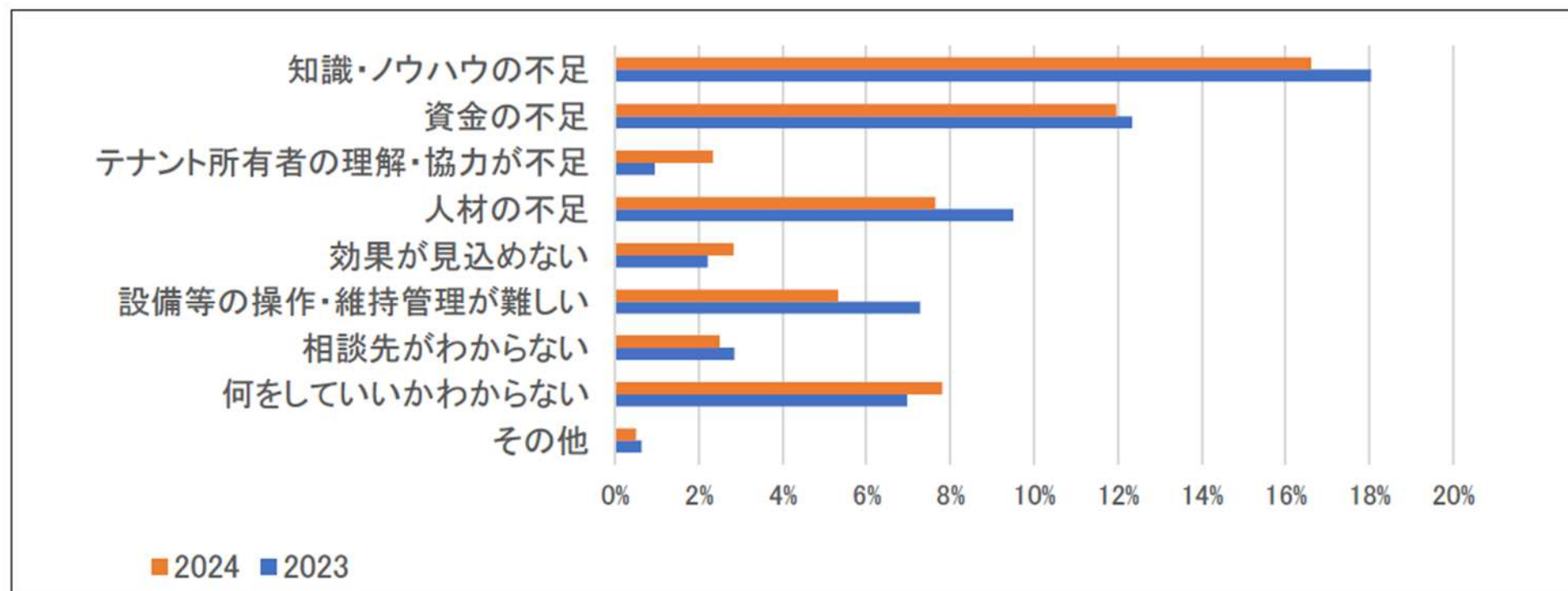
※自家消費型太陽光発電の導入「運用改善による省エネの推進」「環境関連の認証制度の取得」は 2024 年度新規項目

脱炭素以外の取組状況



- 知識・ノウハウの不足が従業員規模によらず最も高く、そのほか資金や人材の不足が挙げられる。

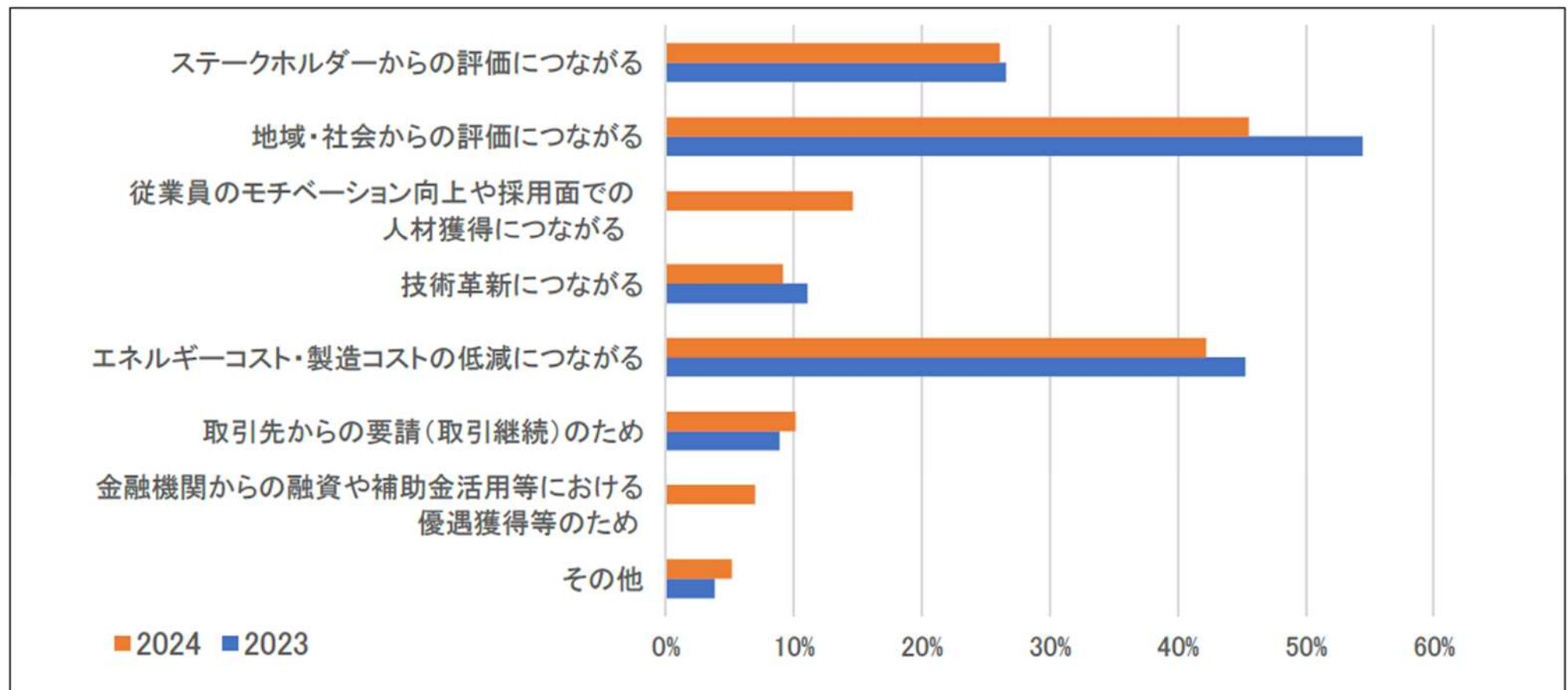
取組の障壁となる事項



事業者の意識・行動＜取り組む目的・きっかけ＞

- 脱炭素に取り組む目的は、地域・社会からの評価やコスト削減が多い
- 取り組むきっかけについては、取引先からの要請が多い印象（ヒアリングより）

取組の目的



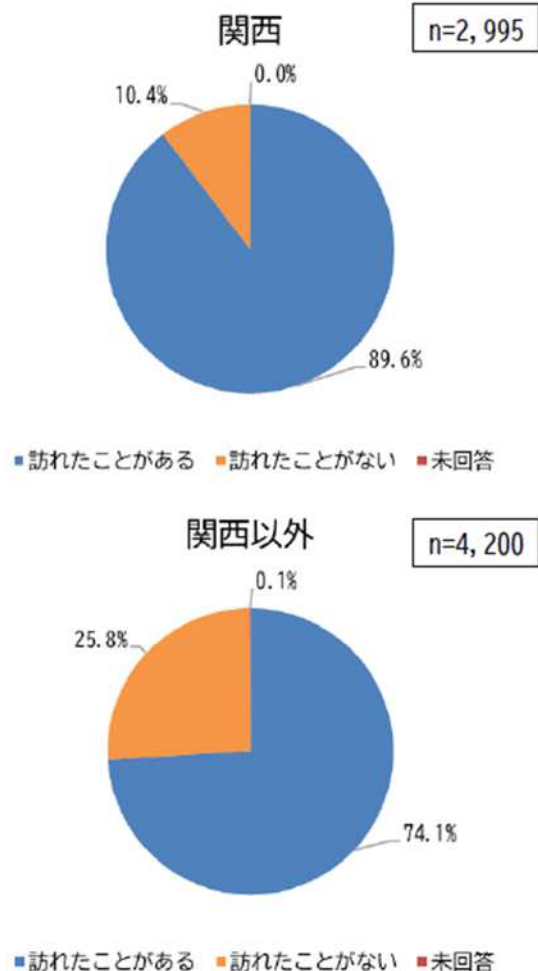
※出典：京都商工会議所『環境対策への取り組み状況についてのアンケート調査』（2023,2024）

京都市来訪の頻度・目的〈何を求めて来訪するのか〉

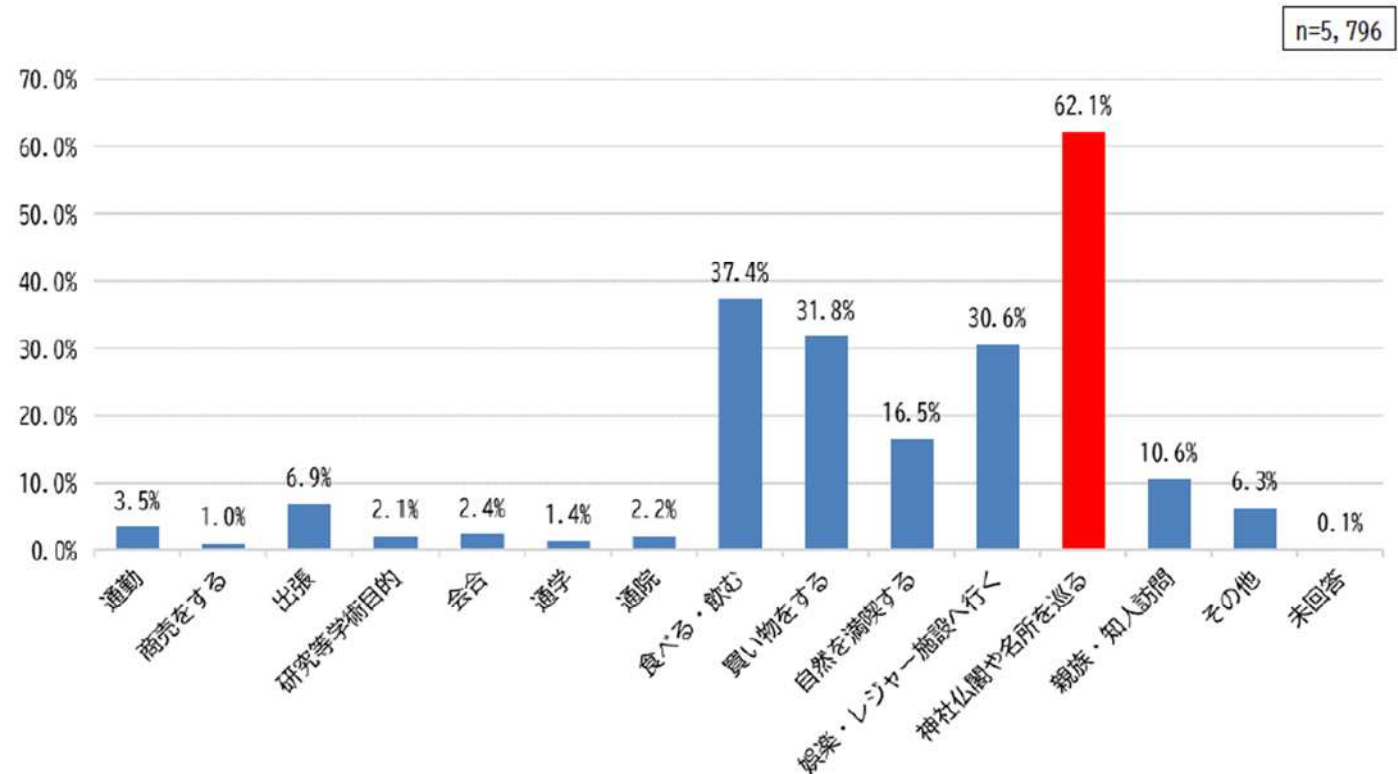
5

- 日本全国で、これまで京都を訪れたことがある方は8割（関西以外でも3/4）
- 訪問目的は「神社仏閣や名所をめぐる」が最も多く62%

京都市来訪の有無・目的



Q3 京都市には何を目的で来られますか（来られましたか）

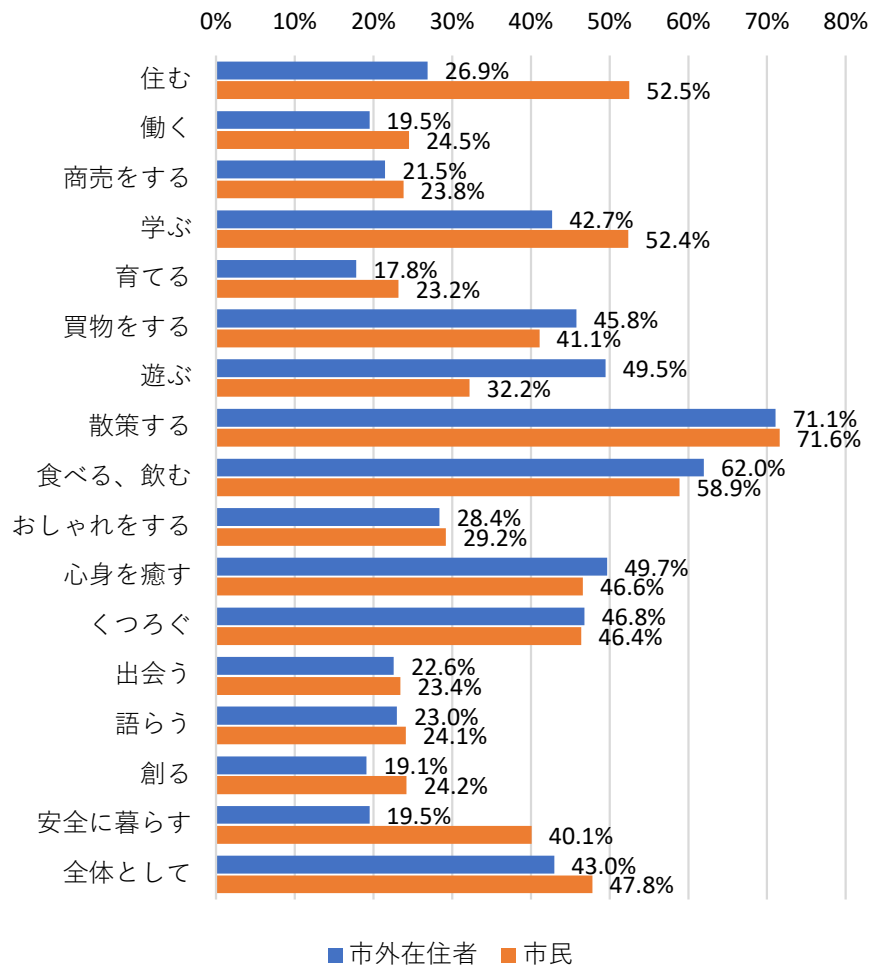


※出典：京都市総合企画局『市外在住者アンケート』（2024）

→「まずは神社仏閣や名所をめぐる」志向の来訪への対応が求められる。

- 京都市の魅力は来訪者（市外在住者）も市民も「散策する」「食べる・飲む」
- 市民の近年の魅力として「食べる・飲む」が伸長

京都市の魅力（市外・市民）



京都市の魅力（市民の推移）

1997年度	第1位	第2位	第3位		2023年度	第1位	第2位	第3位
20歳代	散策する	学ぶ	住む		20歳代	食べる、飲む	散策する	学ぶ
30歳代	散策する	住む	学ぶ		30歳代	散策する	食べる、飲む	学ぶ
40歳代	散策する	学ぶ	住む		40歳代	散策する	食べる、飲む	心身を癒す
50歳代	散策する	住む	くつろぐ		50歳代	散策する	食べる、飲む	学ぶ
60歳代	散策する	住む	学ぶ		60歳代	散策する	食べる、飲む	住む
70歳代以上	散策する	住む	学ぶ		70歳代以上	散策する	住む	学ぶ

※出典：京都市総合企画局『市外在住者アンケート』（2024）
『市民アンケート』（1997,2024）

→「散策する」「食べる・飲む」は
市民・来訪者共通・共有の行動要素

京都市のイメージ＜来訪者・市民＞

7

- 「大学のまち」としてのイメージは、関西に多い

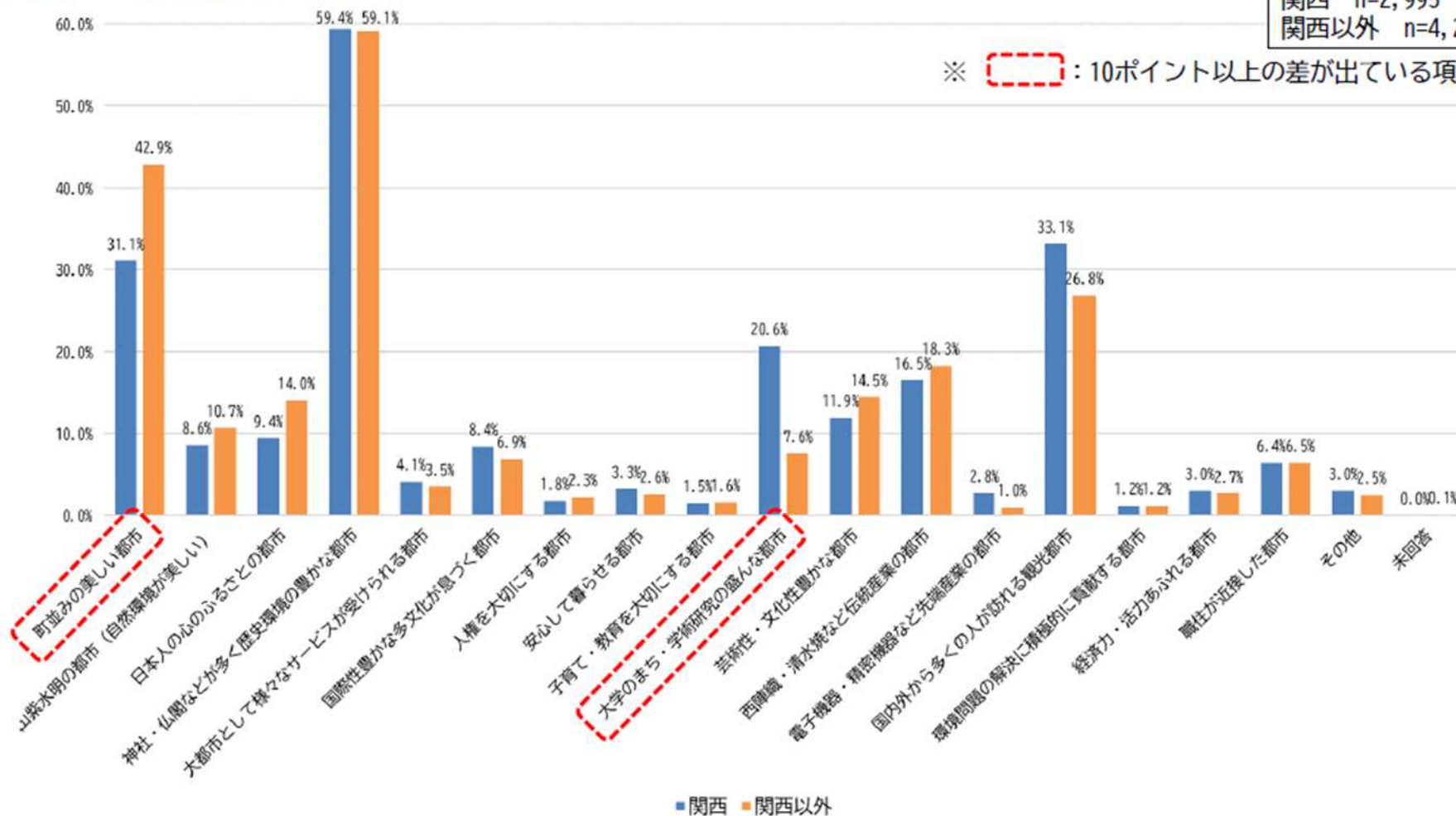
京都市のイメージ（市外の関西・関西以外）

Q8 「現在の京都市」について、あなたが持っておられるイメージはどれですか（最大3つまで）

※ 関西・関西以外の比較

関西 n=2,995
関西以外 n=4,200

※ : 10ポイント以上の差が出ている項目



※出典：京都市総合企画局『市外在住者アンケート』（2024）

持続可能な観光についての意向＜国内・国外観光客＞

8

- 環境に配慮した宿泊施設への宿泊意向は外国人で高い。
- 日本人は、公共交通機関（環境負荷の少ない移動手段）の利用指向が高い

サステナブルな旅行に対する意向

項 目	外国人全体	北米	オセアニア	欧州	中国	台湾	韓国	香港	東南アジア	日本
地域の生活を守りながら観光したい	60.8%	64.9%	57.4%	67.3%	43.8%	70.9%	37.8%	56.7%	55.4%	56.7%
地域の文化を体験したい	53.1%	51.5%	37.7%	54.1%	72.3%	64.9%	46.8%	47.8%	42.6%	23.3%
環境に配慮した宿泊施設に泊まりたい	44.2%	39.3%	46.7%	48.8%	37.7%	44.0%	31.5%	50.0%	45.3%	22.1%
旅行中はなるべく環境負荷の少ない移動手段を利用したい	37.6%	44.8%	37.7%	46.8%	18.5%	25.4%	10.8%	22.2%	35.8%	49.2%
地域の文化や文化財の維持・継承に貢献したい	29.0%	31.4%	28.7%	39.1%	12.3%	20.9%	13.5%	17.8%	25.7%	37.3%
旅行中に使ったお金を地域に還元したい	20.9%	25.3%	25.4%	24.6%	8.5%	21.6%	10.8%	16.7%	16.2%	19.6%
その他	0.9%	0.9%	0.0%	1.6%	0.8%	0.7%	0.0%	0.0%	0.7%	0.5%
特に意識していない	7.6%	10.4%	12.3%	6.3%	6.9%	3.0%	10.8%	11.1%	4.7%	8.2%

持続可能な観光についての意向＜国内・国外観光客＞

9

- 訪問地域を思いやる行動については、日本人では「ごみを持ち帰る」が高い
- 外国人は、発地によるが全体として「観光地・地元生活者への配慮」が高い傾向

訪問地域を思いやる具体的な行動内容

項目	外国人全体	北米	オセアニア	欧州	中国	台湾	韓国	香港	東南アジア	日本
観光地、地元生活者への配慮	34.9%	39.9%	36.2%	30.6%	15.6%	22.6%	30.2%	53.4%	23.5%	21.3%
敬意を払う、礼儀正しくする	20.3%	18.6%	18.8%	27.4%	9.4%	6.5%	4.7%	20.5%	11.8%	0.6%
マナーを守る	12.1%	9.8%	13.0%	13.7%	3.1%	12.9%	7.0%	12.3%	17.6%	14.1%
日本の習慣に従う	8.5%	10.9%	11.6%	9.1%	12.5%	6.5%	2.3%	1.4%	11.8%	－
ゴミを持ち帰る	7.3%	6.6%	4.3%	5.2%	15.6%	0.0%	37.2%	4.1%	5.9%	45.7%
交通ルールを守る	4.6%	2.2%	0.0%	2.3%	21.9%	32.3%	14.0%	1.4%	0.0%	－
日本語を話す・理解するよう努力する	4.1%	4.4%	5.8%	5.2%	0.0%	3.2%	2.3%	1.4%	5.9%	－
コロナ対策	2.8%	3.3%	8.7%	2.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	－
自然や文化財を大切にする	1.0%	0.5%	1.4%	0.0%	9.4%	0.0%	0.0%	1.4%	59.0%	1.5%
環境への配慮	0.9%	0.5%	0.0%	1.0%	0.0%	3.2%	0.0%	2.7%	0.0%	4.7%
公共交通機関を利用する	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2.9%
自転車や徒歩で移動する	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2.1%
観光地になるべくお金を落とす	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1.8%
その他	3.5%	3.3%	0.2%	2.6%	12.5%	12.8%	2.3%	1.4%	17.6%	5.3%

※出典：京都市産業観光局『京都観光層総合調査』令和5(2023)年1～12月

- いわゆる環境配慮行動に大きな違いはない。
- 交流指向は外国人が高め。

環境配慮行動・交流指向

■ 環境に配慮した行動内容

項目	外国人全体	北米	オセアニア	欧州	中国	台湾	韓国	香港	東南アジア	日本
エコバッグやマイボトルを持ち歩き、ごみを減らした	70.3%	64.9%	71.9%	70.2%	79.6%	73.0%	63.6%	75.4%	74.6%	74.3%
できるだけ環境負荷の少ない移動手段を利用した	48.5%	51.6%	42.7%	58.0%	53.8%	51.0%	19.7%	29.5%	33.1%	65.8%
宿泊施設でリネン交換や使い捨てアメニティを断った	40.9%	38.0%	43.8%	41.8%	49.5%	61.0%	28.8%	44.3%	25.4%	14.9%
その他	2.7%	3.2%	1.0%	3.9%	1.1%	1.0%	4.5%	1.6%	0.8%	1.3%

■ 訪問中の地域の人との交流の有無

項目	外国人全体	北米	オセアニア	欧州	中国	台湾	韓国	香港	東南アジア	日本
交流した	63.6%	75.4%	70.4%	70.8%	54.7%	59.7%	22.4%	44.9%	62.1%	47.1%
交流したかったが、機会がなかった	27.0%	20.9%	25.4%	25.9%	21.1%	16.4%	61.7%	27.0%	29.1%	36.5%
交流したいとは思わなかった	9.4%	3.7%	4.2%	3.3%	24.2%	23.9%	15.9%	28.1%	8.8%	16.4%

- 国内・国外共に「自然や風景」が「社寺・名所」に次ぐ感動の要素となっている。
- 一方、国内・国外共に人の多さ、交通機関が残念な要素となっている。

外国人観光客の感動・残念

■ 個別感動度（上位4つ）

分類	割合	例
寺院・神社、名所・旧跡	45.0%	・寺院・神社が美しく、素晴らしかった
自然・風景	12.7%	・風景がきれいで良かった
地域の人のおもてなし	12.4%	・人々が親切で優しかった
歴史、伝統文化	7.5%	・日本文化が保存されている ・文化に感銘を受けた

■ 個別残念度（上位4つ）

分類	割合	例
人が多い、混雑	21.7%	・観光客が多すぎる
電車、バスなどの公共交通	15.8%	・バスや地下鉄が複雑で難しい
時間が足りなかった	11.3%	・観光スポットが多くて時間が足りない
言語、案内、標識	10.8%	・英語をわからない人が多い

日本人観光客の感動・残念

■ 個別感動度（上位4つ）

分類	割合	例
寺院・神社、名所・旧跡	38.7%	・寺院・神社が素晴らしかった ・歴史を感じることができた
自然・風景	14.2%	・新緑が美しかった ・雪が降ってきれいだった
京都のまちの雰囲気	6.6%	・きれいな街並みに感動した
地域の人のおもてなし	6.0%	・店舗やホテルの接客が丁寧だった ・道がわからない時、親切に教えてくれた

■ 個別残念度（上位4つ）

分類	割合	例
人が多い、混雑	30.8%	・観光客が多すぎて、ゆっくり観光できなかった ・混雑により、移動に時間がかかった
電車、バスなどの公共交通	8.9%	・バスの乗り方、バス停がわかりにくかった ・バスの運転が荒かった
マナー	8.0%	・外国人のマナーが悪い
気候	6.6%	・5月にしては暑さが厳しく、慣れない体できつかった

※出典：京都市産業観光局『京都観光層総合調査』令和5(2023)年1～12月

→「自然や風景」「交通機関」などは「散策すること」で感じられる要素